

(15) ごぼう

(ア) 病害

病害虫名及び 防除時期	防除方法及び注意事項
黒条病 7月下旬～	耕種的防除 1. 健全な種子を使用する。 2. 連作を避ける。 3. うね幅を広げる。 薬剤防除 ア. 防除にあたっては、茎葉の枯死・折れを防ぐことが重要である。 1. 茎葉散布 茎葉でうね間が覆われる時期からほ場を観察し、初発直後から 10 日間隔で 2 回散布する。

(イ) 害虫

病害虫名及び 防除時期	防除方法及び注意事項
キタネグサレ センチウ	商品価値に影響を与える線虫密度 1. 土壌 25g 当りの検出数は 5 頭とする。 2. 指標植物を利用した簡易把握方法:栽培予定ほ場の土壌を鉢に取り、ごぼうを室内等で 2 か月間栽培し、寄生指数 1 以下の場合には栽培可能である。 生物的防除 1. 対抗植物を栽培する。 (1) えん麦野生種「ヘイオーツ」、又はマリーゴールド「アフリカントール」 (2) 栽培にあたっての注意事項はだいこんの項を参照する。 2. 増殖抑制効果のある作物には「てんさい」があるが、本センチウは多犯性であり、作物の組み合わせによっては輪作を守っても多発することがあるので注意する。 薬剤防除 1. 土壌灌注 2. 播溝土壌混和
キタネコブセ ンチュウ	商品価値に影響を与える線虫密度 1. 土壌 25g 当り検出数は 2～3 頭とする。 2. 指標植物を利用した簡易把握方法:栽培予定ほ場の土壌を鉢に取り、ごぼう又はにんじんを 2 か月間室内などで栽培、寄生指数 1 以下の場

病害虫名及び 防除時期	防除方法及び注意事項
は種前	<p>合は栽培可能である。</p> <p>耕種的防除</p> <p>1. イネ科など、非寄主作物を組み入れた4年以上の輪作を行う。</p> <p>薬剤防除</p> <p>1. 播溝土壌混和</p>
ネキリムシ類	<p>薬剤防除</p> <p>1. 株元処理</p>
ゴボウヒゲナ ガアブラムシ	<p>薬剤防除</p> <p>1. 茎葉散布</p>

(ウ) クリーン農業技術（病害虫防除関係分）（ごぼう）

○発生モニタリングによる効率的防除

- ・アブラムシ類は増殖率が大きく、高密度になると防除効果が劣るので、ほ場観察による防除要否判断で適期防除
- ・黒条病多発地帯では、茎葉で畦間が覆われる時期からほ場を観察し、初発直後から薬剤を散布

○被害許容水準の活用

- ・栽培前の土壌検診又は簡易指標植物の栽培を利用した線虫密度の把握による防除要否の判断

○耕種的防除

- ・線虫密度低減対策として、前作に対抗植物（えん麦野生種やマリーゴールドなど）を栽培

※栽培に当たっての留意事項

- 線虫密度が極端に高いほ場では、対抗植物を栽培した場合でも十分な効果が得られないので、注意すること。

※注釈

- 前作に対抗植物（えん麦野生種やマリーゴールドなど）を栽培し、線虫密度を低減

○キタネグサレセンチュウ

- ・土壌健診 要防除水準：5頭以上/25g 土壌

検診法

- ①土壌サンプリング（作付け予定地より4、5箇所サンプリング）
- ②普及センター等で調査

- ・指標植物健診 要防除水準：寄生度1以上

検診法

- ①土壌サンプリング（作付け予定地より4、5箇所サンプリング）

②サンプリングした土壌を 15 cmポリポットに充填し、ごぼうを4、5粒は種

③2か月程度生育させる（本葉2～3枚）

④掘取り根を観察調査

○キタネコブセンチュウ

・土壌健診 要防除水準：2頭以上/25g 土壌

・指標植物健診 要防除水準：寄生度1以上

線虫の寄生度

寄生度(階級値)	ネコブセンチュウ(各作物共通)	ネグサレセンチュウ		
		ごぼう	だいこん	にんじん
0	こぶが全くなし	黒変が全くなし	白斑・褐点が全くなし	褐点が全くなし
1	コブがわずか	根の一部が黒変 (注意すると認められる)	白斑・褐点がわずか	褐点がわずか
2	コブが中程度(散見)	根の数か所が黒変(一見して識別できる)	白斑・褐点が少ない	褐点が少ない
3	コブが多数	根の半分程度が黒変	白斑・褐点が全体に散見	褐点が全体に散見
4	コブが極めて多数(密集)	根の全体が黒変	白斑・褐点が全体に多数	褐点が全体に多数

要防除水準を超えたほ場では、対抗植物（マリーゴールド、えん麦野生種）を3か月以上栽培してからごぼうを作付ける。は種量は、マリーゴールド（アフリカントール）は1.5kg/10aとえん麦（ヘイオーツ）は15kg/10aが必要である。なお、対抗植物のすき込みは適期に行い、腐熟期間は十分にとる必要がある。後作緑肥としてはえん麦野生種が有効で、キタネグサレセンチュウ密度をごぼう・にんじんに対する被害許容水準である5頭/25g以下にするために、えん麦野生種を8月10日頃には種し、すき込み時の生育量は3,000kg/10a(草丈で80cm程度)を確保する。